

令和4年度秋季展  
永青文庫漆芸コレクション  
かがやきの名品

2022年10月8日(土)～12月11日(日)

 永青文庫

この秋必見！螺鈿の超絶技巧・国宝「時雨螺鈿鞍」を限定公開



国宝「時雨螺鈿鞍」  
鎌倉時代(13～14世紀)  
展示期間:10/8(土)～11/13(日)

古くから人々の生活に馴染み深い漆芸品。中国では貝殻を嵌め込む「螺鈿<sup>らでん</sup>」、漆を塗り重ねて文様を彫り表す「彫漆<sup>ちようしつ</sup>」、漆の表面に線を刻んで、そこに金箔などを擦りこむ「鎗金<sup>そうきん</sup>」といった技法が生み出され、日本では金銀粉や色粉を蒔きつける「蒔絵<sup>まきえ</sup>」が独自に発展を遂げるなど、多種多様な作品が制作されました。それらが放つ「かがやき」はアジアのみならず西洋人も魅了し、漆芸は東洋を象徴するものとなりました。

永青文庫の膨大な漆芸コレクションには、大名調度、馬具、茶道具、楽器など様々な種類が含まれます。さらに、日本だけでなく、中国、朝鮮半島、琉球、東南アジアで制作された作品がみられるのも特徴のひとつです。本展は、永青文庫では実に16年ぶりの展示となる「時雨螺鈿鞍<sup>しぐれらでんくら</sup>」(国宝)をはじめ、選りすぐりの作品を最新の調査結果とともに紹介します。細川家が代々大切にしてきた「かがやきの名品」をこの機会にぜひお楽しみください。

また永青文庫では、「文化財修理プロジェクト」のクラウドファンディングを、昨年度はじめて実施しました。本展では、いただいたご支援をもとに修理した、横山大観・下村観山・竹内栖鳳筆の三幅対「観音猿鶴<sup>かんのんえんかく</sup>」をいち早く公開します。当時の日本画壇を代表する3人の画家が手掛けた貴重な合作をご覧ください。

## 展示構成

### 大名家の暮らしを彩る漆芸品

日本の装飾美術の代表「蒔絵」は、金銀の粉を器物の表面に蒔きつけて文様を表す技法。平安時代には皇族や貴族の調度、寺社の器物に用いられ、平安時代後半には螺鈿と組み合わせた和様の表現もなされました。近世に入り社会が安定すると蒔絵はより広い階層に親しまれ、江戸時代後半には絢爛豪華だけでなく、漆芸技術を駆使した個性溢れる作品が生み出されました。

大名細川家にも蒔絵を中心とした漆芸品が数多く伝わり、暮らしを美しく彩っていました。そのなかには、婚礼の際に細川家に運び込まれた調度品や細川家の記録に残る重要な作品もあります。また、細川家は能楽を嗜んでいたことから、鼓をはじめとした演能に用いられる楽器も豊富にあり、こうした品々にも大名道具にふさわしい精巧な蒔絵が施され、大切に伝えられてきました。



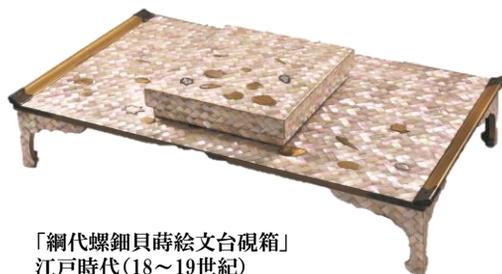
「千鳥蒔絵硯箱」  
室町時代(16世紀)  
展示期間:11/15(火)~12/11(日)



「橋桜九曜紋蒔絵硯箱」  
江戸時代(18世紀)



「菊桐紋散蒔絵螺鈿徳利」  
伝加藤清正所用  
桃山~江戸時代(17世紀)



「綱代螺鈿貝蒔絵文台硯箱」  
江戸時代(18~19世紀)

### 人々を魅了した唐物漆器

鎌倉時代以降、中国をはじめとした海外から渡来した書画や器物は「唐物」としてもてはやされました。室町時代には、寺院の什器として用いられるだけでなく、美術品の鑑定を行う唐物奉行により格付けが行われたり、『君台観左右帳記』に座敷の装飾方法が記されるなど、將軍家や武家に重宝されました。

永青文庫には30点を超える中国の漆器が確認されているほか、朝鮮半島や琉球、東南アジアで制作されたものもみられます。地域が多岐にわたるだけでなく、技巧に優れた作品が多く、細川家には大名家にふさわしい工芸品が取り揃えられていました。



「牡丹唐草螺鈿馬上杯」  
中国 明時代(14~15世紀)



「雲龍漆絵輪花食籠」  
中国 清時代(18世紀)



「唐草螺鈿長方箱」  
朝鮮 18~19世紀



「楼閣山水螺鈿印籠」  
琉球 18世紀



## 蒔絵師たちの美技

江戸時代は蒔絵師たちによって個性的な作品が生み出されました。例えば、装身具として広く受容されるようになった印籠は、小さいながらも洒落た意匠や技巧を凝らしたものが競ってつくられました。永青文庫が所蔵する原羊遊齋をはじめとした名工の作品からは、この時代に花開いた豊かな蒔絵表現がみてとれます。また、当館では、高野松山や松田権六（いずれも重要無形文化財保持者〈人間国宝〉）や、大正～昭和初期に活躍した磯矢完山などが手がけた作品も所蔵しています。平安時代に興隆したといわれる蒔絵技術を受け継ぎ、その保護と発展に寄与した近代の名工による優品もご紹介します。



飯塚桃葉「孔雀蒔絵印籠」  
江戸時代(19世紀)



原羊遊齋「雪華文蒔絵印籠」  
江戸時代(19世紀)



原羊遊齋「椿蒔絵詠草箱」  
江戸時代(19世紀)



高野松山「獅子蒔絵色紙箱」  
昭和2年(1927)

## 文化財修理プロジェクト 第1弾修理作品「観音猿鶴」修理後初公開

「観音猿鶴」は、永青文庫の設立者・細川護立が、横山大観・下村観山・竹内栖鳳に依頼したことにより制作されました。当時の日本画壇を代表する画家が手掛けた貴重な合作であるばかりでなく、護立と画家たちの交流を示す、永青文庫としても重要な作品です。

掛軸は巻いた状態で保管しているため、作品を掛けたときに巻き癖が伸びてまっすぐかかるよう、軸木におもりとして鉛を埋め込むことがあります。しかし、その鉛が長年の間に酸化してふくらみ、作品を傷つけてしまうことがあります。「観音猿鶴」の軸木にも鉛が埋め込まれており、膨張し始めていました。今回の修理では、軸木の交換に加え、軸木・八双の取り付け部分の補強や、掛軸全体のたわみの改善を行い、より美しい状態で作品を鑑賞できるようにしました。



横山大観、下村観山、竹内栖鳳「観音猿鶴」  
明治43年(1910)頃  
展示期間:10/8(土)～11/13(日)

### 【開催概要】

展覧会名:令和4年度秋季展

### 永青文庫漆芸コレクション かがやきの名品

会 期:2022年10月8日(土)～12月11日(日) ※会期中、一部展示替えがあります。

※ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

※マスク着用の上、ご来館ください。当館の新型コロナウイルス感染拡大予防対策については、ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開館時間の変更または臨時休館となる場合がございます。

会 場:永青文庫

開館時間:10:00～16:30 (入館は16:00まで)

休 館 日:毎週月曜日(ただし10/10は開館し、10/11は休館)

入 館 料:一般1000円、シニア(70歳以上) 800円、大学・高校生500円

※中学生以下、障害者手帳をご提示の方及びその介助者(1名)は無料。

主 催:永青文庫

特別協力:ホテル椿山荘東京

### 【お問い合わせ】

公益財団法人 永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1 TEL: 03-3941-0850 FAX: 03-3943-0454

郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。

※掲載作品はすべて永青文庫蔵  
※表示がない作品は通期展示



# 見どころ

## 永青文庫では16年ぶりの公開！

### 国宝「時雨螺鈿鞍」を期間限定展示

中世螺鈿鞍の名品といわれる「時雨螺鈿鞍」。他館に貸し出すことが多く、永青文庫では長らく展示されていませんでしたが、本展で実に16年ぶりに公開します。繊細な貝を自由自在に使いこなしした超絶技巧は必見！鞍の画面に、『新古今和歌集』巻十一に収められた恋の歌を表した文字が隠れており、そうした葦手絵を取り入れた漆芸品の最古例に属する大変希少な鞍です。



後輪部分に隠された文字

国宝「時雨螺鈿鞍」  
鎌倉時代(13～14世紀)  
展示期間:10/8(土)～11/13(日)

## 大名調度、唐物、有名蒔絵師による作品まで幅広いコレクションを一堂に

永青文庫の漆芸コレクションは、種類や制作地域、時代が多岐にわたるところが大きな特徴です。また、有名蒔絵師が手掛けた品々も少なくありません。本展ではその多様なコレクションのなかから選りすぐりの作品を公開します。



「長柄橋橋柱製文台」  
桃山時代(16世紀)

## 唐物漆器を最新の調査結果とともにご紹介

本展にあわせて、中国や朝鮮、琉球、東南アジアの漆器調査を実施。これまであまり紹介されていない作品のなかにも、「紫檀地孔雀螺鈿長方箱」など優品が含まれていることが明らかになりました。これらを調査の成果とともに地域別にご紹介します。



「紫檀地孔雀螺鈿長方箱」  
ベトナム 阮時代(19～20世紀)



「布袋堆朱香合」  
中国 明時代(16世紀)

## 関連企画・近隣イベント

### 「永青文庫漆芸コレクション」展×ホテル椿山荘東京 料亭「錦水」連携企画 「漆芸と秋の味覚を楽しむ会」<1日限定開催>

料亭「錦水」にて永青文庫館長・小松大秀が永青文庫や本展の見どころを解説。調理長がこの日の為に準備した珠玉の美味を楽しんだあとは、貸切りで展示をゆったりご鑑賞いただけます。文化と芸術に触れる秋のひとときをお楽しみください。

【日時】2022年10月31日(月)

11:00～13:00 講演とお食事<料亭「錦水」八千代> 館長による解説(約30分)後、お食事

13:00～15:00 永青文庫へ移動後、「永青文庫漆芸コレクション」展 自由見学

【料金】12,000円(お食事(松花堂弁当)・展覧会チケット・税金・サービス料込)

【定員】30名様

ご予約・お問い合わせ:ホテル椿山荘東京 TEL 03-3943-5489



### 三井記念美術館との相互割引

本展(10/8～12/11)と三井記念美術館「大蒔絵展—漆と金の千年物語」(10/1～11/13)の会期中、観覧済みの有料チケットをご提示いただくと、下記のとおり入館料が割引になります。

「永青文庫漆芸コレクション」展(「大蒔絵展」チケット提示):一般200円引き、大・高生100円引き

「大蒔絵展」(「永青文庫漆芸コレクション」展チケット提示):一般300円引き、大・高生100円引き

※1名様につき1回まで。他割引との併用不可。

### 「秋の紅葉ライトアップ～ひごあかり～」

永青文庫のお隣、肥後細川庭園にて3年ぶりに開催予定

期間:2022年11月下旬 17:00～21:00 ※詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.higo-hosokawa.jp/>

お問い合わせ:肥後細川庭園 TEL 03-3941-2010



令和4年度秋季展「永青文庫漆芸コレクション かがやきの名品」  
 広報画像申請書

2022年10月8日(土)~12月11日(日)

貴社名: \_\_\_\_\_ 媒体名: \_\_\_\_\_

ご担当者名: \_\_\_\_\_ ご所属: \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

ご住所: 〒 \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_ 掲載予定日: 年 月 日

掲載概要: (コーナー名、画像の掲載サイズ など)

読者プレゼント用チケット(5組10名様)ご希望の場合はチェックを付けてください。  
 ※2022年11月13日までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。



1. 国宝「時雨螺鈿鞍」  
鎌倉時代(13~14世紀)  
【展示期間 10/8(土)~11/13(日)】  
永青文庫蔵



2. 「橋樑九曜紋蒔絵硯箱」  
江戸時代(18世紀)  
永青文庫蔵



3. 「綱代螺鈿貝蒔絵文台硯箱」  
江戸時代(18~19世紀)  
永青文庫蔵



4. 「牡丹唐草螺鈿馬上杯」  
中国 明時代(14~15世紀)  
永青文庫蔵



5. 「雲龍漆絵輪花食箱」  
中国 清時代(18世紀)  
永青文庫蔵



6. 「楼閣山水螺鈿印籠」  
琉球 18世紀  
永青文庫蔵



7. 「紫檀地孔雀螺鈿長方箱」  
ベトナム 阮時代(19~20世紀)  
永青文庫蔵



8. 原羊遊斎  
「雪華文蒔絵印籠」  
江戸時代(19世紀)  
永青文庫蔵



9. 高野松山  
「獅子蒔絵色紙箱」  
昭和2年(1927)  
永青文庫蔵



10. 横山大観、下村観山、竹内栖鳳「観音猿鶴」  
明治43年(1910)頃  
【展示期間 10/8(土)~11/13(日)】永青文庫蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。  
 ※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。  
 ※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみに使用いたします。  
 許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。